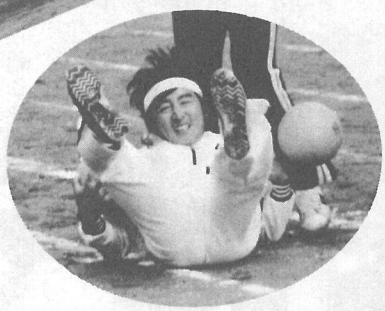
飛び交う大声援

四連覇 またも第3ブロック



は勿論、遠く他の郡郷からも先生の名声と作風を慕って集まって来る人も多く、次第に礼を尽くす門下生も出てきました。農閑期などには、訪れて来た門下生との吟詠講が深更に及ぶことも度々でした。また、集まって来る門下生が余りにも多く、時には「何か祝い事でもあるのか？」と近所の人が驚いたりすることもありました。

こうして俳諧の道に勤しみ、人人に慕われて過ごした先生でしたが、弘化二年（一八四五）の夏にふとした病気が原因で、わずか十数日間床に就いただけで六十四歳の生涯を閉じました。

先生の人柄や作風を追慕する人人は、その死を痛んで先生の句碑を建立して名残りを惜しむとともに、冥福を祈ったのです。

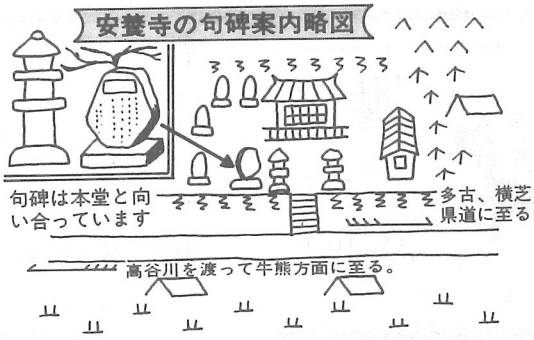
案内図のさし絵は、その碑で、碑面上部の編額には「雪堂碑」と題字が刻まれ、その下には「翁諱年彦宇一鳥号雪堂小字喜七後様市左エ門姓○氏上総武射郡谷台邑人也家世以農為命性嗜滑○従三世一叟学俳詣遂得肯綮焉雖愚男少女以談笑諷詠是以声銘洋溢四方鄰里郷黨闕口不置其従遊類衆弘化四年夏卧病十有余日続纏夜無徧体逼悩叫呼之声奄然而逝矣亨年六十四実五月廿二日也親故門人共造霊櫬歌蒿里衷毀過礼立碑於寳蔵精舎本堂側翁娶於高田邑堀越氏先年挙一男三女長女承家二女嫁於二又邑内藤半左エ門三女嫁於富下邑加瀬多良左エ門男啓亮別家於印耕之地翁開朴之地也嘉永夏五月営七回追○講述行履○不朽余感嗣子規保之序義豈可辞哉因表、尚陽道人智堅撰文並書

松風に、浦辺明るき　屋根の月

故人　雪堂　吟」

と刻まれています。

◎碑文中○印は判読不可能な文字です。尚、場所の関係から写真を割愛し、案内図に付けたさし絵でご了察いただきたいと思います。

取材中「先生の作った俳句の短冊や、書かれた掛軸などが、芝山の仁王様で大事に保存されているらしい」という話を聞きました。

横芝町文化財審議会委員
小沢春光さん寄稿